

第5次総合計画前期基本計画の振り返りについて（概要版）

6	学校教育の 充実	<p>学校と社会が学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、子どもが自分の人生を切り拓くために求められる資質・能力を高め自己実現を図っています。学校再編により適正規模の集団で様々な背景をもつ仲間と共に生きる心が培われています。変化の激しい社会の中、デジタル技術を活用した学び、グローバル化に対応した英語教育、個々のニーズに応じた指導・支援等、三田で学んだ子どもたちが誇りに思える教育が充実しています。</p>	<p>前期計画期間では、児童生徒への相談支援、1人1台端末を活用した学びの充実、外国在住講師によるオンライン英語授業、水泳授業民間施設利用など、「生きる力」を育む教育の推進という基本目標の達成に向け、多岐にわたる取組を進めた。</p> <p>また、トイレの洋式化を含む学校施設整備や大規模改修、ネットワーク環境の充実、さらに学校における働き方改革の推進など、学びを支える環境の整備も行った。</p> <p>成果指標では、「3.子どもの自尊感情」、「5.洋式便器の整備」は順調に推移しているが、「2.いじめの相談」「4.将来の夢や目標」は目標数値とは乖離がある。なお、「1.ICT機器の活用」について、類似の調査において活用が進んでいる状況を確認している。</p> <p>学校教育は市民の関心が高い分野であり、後期計画では、これまでの取組を充実させるとともに、不登校対策などの今日的課題への対応も行う必要がある。また、学校の小規模化に伴う課題解消に向けて、保護者や地域とも連携し学校再編に取り組んでいく。</p>
---	-------------	--	---

市民意識調査の結果		指標等の進捗状況						
重要度	4.04	指標名	基準値 (R2)	方向性	R4	R5	R6	目標R8
重要度 平均からの 偏差	0.06	1 学習の中でコンピュータ等のICT機器を使うのは勉強の役に立つと答える子どもの割合	(小6)71.1% (中3)64.2% (R3)	↑	(小6)70.2% (中3)58.3%	(小6)67.8% (中3)60.2%	-	(小6)90.0% (中3)85.0%
重要度順位	8/25位	2 「いじめを受けたり、嫌なことがあったりした時」相談しないと答える子どもの割合	(小6)7% (中3)11% (R3)	↓	(小6)10.3% (中3)9.1%	(小6)10.6% (中3)11.3%	(小6)13.3% (中3)11.0%	(小6)0% (中3)0%
満足度	3.11	3 「自分には、よいところがあると思う」と答える子どもの割合	(小6)80.7% (中3)76.5% (R3)	↑	(小6)78.3% (中3)75.1%	(小6)85.8% (中3)81.7%	(小6)88.1% (中3)84.9%	(小6)90.0% (中3)85.0%
満足度 平均からの 偏差	0.03	4 「将来の夢や目標をもっている」と答える子どもの割合	(小6)80.7% (中3)68.6% (R3)	↑	(小6)79.2% (中3)66.7%	(小6)79.9% (中3)62.7%	(小6)83.3% (中3)64.2%	(小6)90.0% (中3)85.0%
満足度順位	9/25位	5 校舎の洋式便器1基あたりの児童生徒数	(女子)14.4人 (男子)20.8人 (R3)	↓	(女子)12.5人 (男子)19.6人	(女子)11.1人 (男子)17.1人	(女子)10.4人 (男子)15.9人	(女子)10.0人 (男子)20.0人

「ひと」のチカラを育み、活きるまち ～輝く人づくり～

6 学校教育の充実



1. 10年後に目指したい将来像

学校と社会が学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、子どもが自分の人生を切り拓くために求められる資質・能力を高め自己実現を図っています。学校再編により適正規模の集団で様々な背景をもつ仲間と共に生きる心が培われています。変化の激しい社会の中、デジタル技術を活用した学び、グローバル化に対応した英語教育、個々のニーズに応じた指導・支援等、三田で学んだ子どもたちが誇りに思える教育が充実しています。

2. 10年後に心配される三田の状況

3. 10年後に目指したい三田の状況

取り組み

A	子どもたちの学習意欲が向上せず、学習場面でのデジタル技術の活用等も遅れ、急速に進展する社会に対応する学力が十分身につけていないこと	自らの学習状況を把握・調整し、他者との協働、デジタル技術の効果的な活用等により、主体的に課題解決を図ることができる子どもたちが育っていること	①
B	基本的なモラルや自己有用感の低下等により、人権侵害や差別、いじめ、問題行動等が起きやすい状態になっていること	自尊感情※や他者への思いやり等の精神が養われ、道徳教育や人権教育、体験活動等を通じて、人やふるさとを愛する心が育っていること	②
C	偏った栄養摂取、朝食欠食等食生活の乱れや肥満・痩身傾向等、子どもたちの健康を取り巻く問題が深刻化していること	子どもたちが食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けるとともに、食を通じて地域との関わりや、食の大切さ等を理解し、感謝の心が育まれていること	③
D	子どもたちが様々な悩みを抱えたり、困難な状況に置かれていたりする状況にあっても、子ども自らSOSが発信できないこと	子どもたちが、自尊感情、自己有用感を高めながら、いじめ等の問題が発生しにくい落ち着いた環境の中で主体的な学びができていないこと	④
E	学びに対する意欲低下、発達に関する課題、家庭環境等が要因となり、自らの進路を見いだせないでいる不登校児童生徒が増加していること	子どもたちが、社会的・職業的な自立に向けて、社会の中で自分の役割を果たしながら、夢・希望の実現に向けて主体的に学んでいること	⑤
F	少子化に伴い、児童生徒がさらに減少し、学校の小規模化が進み、教育活動に様々な課題が生じていること	学校再編により、学校の小規模化に伴う課題を解消し、全ての子どもたちの可能性を引き出す多様な学びの機会が創出され、子どもたちの教育環境が充実していること	⑥



■全国学力・学習状況正答率の推移

		H31			R3		
		三田市	県	国	三田市	県	国
小学校	国語	66	62	64	66	64	65
	算数	71	67	67	73	71	70
中学校	国語	79	73	73	68	64	65
	数学	67	62	60	63	58	57
	英語	64	58	56			

※中学校英語は3年に1回程度実施のため令和3年度は実施せず

※自尊感情

「self-esteem(セルフエスティーム)」の訳語とも言われ、「自分をかけがえない存在と考える感情」「自分を価値ある存在と肯定的にとらえる気持ち」(自己肯定感、自己効力感)であり、これが高まることにより、よりよい人間関係を構築していくことにもつながると言われる。

※里山 11ページ参照

※全国学力・学習状況調査

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析する調査をいう。小学校6年生、中学校3年生を対象としている。

※障害「障害」の漢字表記については12ページ参照

※共に学ぶ環境や仕組み(インクルーシブ教育)

障害のある子どもと障害のない子どもが、共に学ぶ教育の仕組みのことをいう。障害のある子どもが教育制度一般から排除されないこと、自己の生活する地域において、初等中等教育の機会が与えられること、個人に必要な「合理的配慮」が提供されることなどが必要とされている。

※キャリア教育

一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育をいう。

「ひと」のチカラを育み、活きるまち ～輝く人づくり～

【6】 学校教育の充実

★人口減少対策★

1 10年後に目指したい将来像

学校と社会が学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、子どもが自らの人生を舵取りできる力を高め自己実現を図っています。学校の小規模化に伴う諸課題が解消され、一定の集団規模の中で、多様な考えに触れ、他者と協働しながら学ぶことで「主体的・対話的で深い学び」を確かなものとしていける教育環境が整い、仲間と共に生きる心が培われています。グローバル化が進展していく社会に対応するための英語によるコミュニケーション能力の育成、理数教育の充実、探究的な学びの過程を重視した学習活動、個々の教育的ニーズに応じた指導・支援等、三田で学んだ子どもたちが誇りに思える教育が充実しています。

2 10年後に心配される三田の状況

3 10年後に目指したい三田の状況

取り組み 指標

A	子どもたちの学習意欲が向上せず、学習場面でのデジタル技術の活用等も遅れ、急速に進展する社会に対応する学力が十分身につけていないこと	自らの学習状況を把握・調整し、他者との協働、デジタル技術の効果的な活用等により、主体的に課題解決を図ることができる子どもたちが育っていること	①	b・c
B	人権に関する正しい知識の不足や自己肯定感の低下等により、人権侵害や差別、いじめ、問題行動等が起きやすい状態になっていること	自己肯定感や他者への尊重の意識が高まり、道徳教育や人権教育、地域での交流・体験活動を通じて、人やふるさとを愛する心が育っていること	②	a・b・c
C	偏った栄養摂取、朝食欠食等食生活の乱れや肥満・痩身傾向等、子どもたちの健康を取り巻く問題が深刻化していること	子どもたちが食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けるとともに、食を通じて地域との関わりや、食の大切さ等を理解し、感謝の心が育まれていること	③	c・d
D	子どもたちが様々な悩みを抱えたり、困難な状況に置かれていたりする状況にあっても、子ども自らSOSが発信できないこと	子どもたちが、自尊感情、自己有用感を高めながら、いじめ等の問題が発生しにくい落ち着いた環境の中で主体的な学びができていないこと	④	a・b・c
E	学びに対する意欲低下、発達に関する課題、家庭環境等が要因となり、自らの進路を見いだせないでいる不登校児童生徒が増加していること	子どもたちが、社会的・職業的な自立に向けて、社会の中で自分の役割を果たしながら、夢・希望の実現に向けて主体的に学んでいること	⑤	b・c
F	学校の小規模化により、多様な考えを聞いて学ぶことや、協力し合う経験の不足、人間関係の固定化など、様々な制約が生じており「主体的・対話的で深い学び」を確かなものにしていく上で、教育活動に様々な課題が生じていること	学校の小規模化や施設面での諸課題を解消し、一定の集団規模の中で、多様な考えに触れ、他者と協働しながら学ぶことで、全ての子どもたちの可能性を引き出す多様な学びの機会が創出され「主体的・対話的で深い学び」を確かなものとする教育環境が充実していること	⑥	b・c・e

4. 取り組み

市民

- ◆保護者は、子どもたちが心豊かで健やかに育つよう生活習慣や学習習慣を整え、愛情をもって子どもたちを育てていきます。
- ◆市民は、学校について理解を深め、学校と地域の連携した取り組みに協力するなど、子どもたちを見守り、育てていきます。
- ◆市民は、三田の教育資源である里山※文化、共生の理念について理解を深め、三田に誇りをもって、子どもたちを育てていきます。

事業者・団体等

- ◆事業者、団体等は、子どもたちの確かな学力、豊かな心と健やかな体の育成に向けて、様々な体験学習の機会や場所の提供に協力します。

市

①「確かな学力の育成」～子どもの可能性を拓く学びの実現～

全国学力・学習状況調査※の結果から課題に対し具体的な指導方法の改善を図るとともに、個別に最適化された学びと協働的な学びを進めます。探究的な学習の過程を一層重視し、主体的・対話的で深い学びの実現に向け授業改善を図り、資質・能力(知識・技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力・人間性等)をバランスよく育成します。

②「豊かな心の育成」～ふるさとを愛する心を育む～

児童生徒のやさしさや思いやりの心、生命を尊重する心を育て、善悪の判断や規範意識を育むよう家庭・地域と連携した道徳教育や人権教育を進めます。里山での営みから培われてきた生活文化や歴史・伝統等、三田の特色を生かした体験活動等を取り入れながら、教科横断的に学ぶ機会を通じて、ふるさとを愛する心を育みます。

③「健やかな体の育成」

生涯にわたり心身共に健康で、活力ある生活を送るために、体力向上の取り組みを進め、自ら進んで運動する習慣の定着を図ります。心身の成長や健康の保持増進を図るため、学校給食を食った教材とし、地場産物の活用を通し自然豊かな三田の食材を味わい、ふるさとを実感し、生産者への感謝の心を育む食育を進めます。

④一人ひとりが大切にされる教育・支援の充実

特別な配慮を要する児童生徒の状態を把握し個に応じた指導・支援の充実に努めます。学校園所や関係機関と連携し、誰ひとり取り残さない児童生徒理解に基づく生徒指導を行うとともに、相談・支援体制を充実します。三田が培ってきた共生の理念を礎に障害※の有無に関わらず「共に学ぶ環境や仕組み(インクルーシブ教育)※づくり」を進めます。

⑤社会的自立に向けた教育の推進

組織的・系統的なキャリア教育※を充実するとともに、社会に貢献しようとする心を育みます。将来、国際社会でも活躍できるグローバル人材の育成に向け、語学力やコミュニケーション能力を育み、ふるさと三田に誇りを持ち、異文化理解を進めます。高等学校や大学・博物館等の社会資源と連携し、教育の充実に取り組みます。

⑥学びを支える環境の整備～子どものより良い学びの環境づくり～

多様な学びの機会創出のため、市民との対話を重ね学校再編に取り組みます。GIGAスクールへの対応やトイレの洋式化等学校施設の整備、長寿命化を進め、時代の変化に対応した教育環境の充実に取り組みます。若手教職員等の育成を図るとともに学校現場の働き方改革を進めます。学校と地域が連携した取り組みを充実します。

5. 成果指標等

指標名	基準値	基準年	目標値(R8)
学習の中でコンピュータ等のICT機器を使うのは勉強の役に立つと答える子どもの割合	(小6)71.1%、(中3)64.2%	(R3)	(小6)90.0%、(中3)85.0%
「いじめを受けたり、嫌なことがあったりした時」相談しないと答える子どもの割合	(小6)7%、(中3)11%	(R3)	(小6)0%、(中3)0%
「自分には、よいところがあると思う」と答える子どもの割合	(小6)80.7%、(中3)76.5%	(R3)	(小6)90.0%、(中3)85.0%
「将来の夢や目標をもっている」と答える子どもの割合	(小6)80.7%、(中3)68.6%	(R3)	(小6)90.0%、(中3)85.0%
校舎の洋式便器1基あたりの児童生徒数	女子14.4人、男子20.8人	(R3)	女子10.0人、男子20.0人

4 取り組み

市民

- ◆保護者は、子どもたちが心豊かで健やかに育つよう生活習慣や学習習慣を整え、愛情をもって子どもたちを育てていきます。
- ◆市民は、学校について理解を深め、学校の地域と連携した取り組みに協力するなど、子どもたちを見守り、育てていきます。
- ◆市民は、三田の教育資源である里山文化、共生の理念について理解を深め、三田に誇りをもって、子どもたちを育てていきます。

事業者・団体等

- ◆事業者、団体等は、子どもたちの確かな学力、豊かな心と健やかな体の育成に向けて、様々な体験学習の機会や場所の提供に協力します。

市

①「確かな学力の育成」～子どもの可能性を拓く学びの実現～

全国学力・学習状況調査の結果から子どもの生活実態や学習状況等を適切に把握・分析し、課題の改善に向け指導方法の工夫を図ります。個別に最適化された学びと協働的な学びの一体的な充実を図るなど、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進めることで、資質・能力(知識・技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力・人間性等)をバランスよく育みます。

②「豊かな心の育成」～ふるさとを愛する心を育む～

児童生徒のやさしさや思いやりの心、生命を尊重する心を育て、善悪の判断や規範意識を育むよう家庭・地域と連携した道徳教育や人権教育を進めます。里山での営みから培われてきた生活文化や歴史・伝統等、三田の特色を生かした体験活動等を取り入れながら、教科横断的に学ぶ機会を通じて、ふるさとを愛する心を育みます。

③「健やかな体の育成」

生涯にわたり心身共に健康で、活力ある生活を送るために、体力向上の取り組みを進め、自ら進んで運動する習慣の定着を図ります。心身の成長や健康の保持増進を図るため、学校給食を食った教材とし、食に対する正しい知識を身につけ、地場産物の活用を通し自然豊かな三田の食材を味わい、ふるさとを実感し、生産者への感謝の心を育む食育を進めます。

④「一人ひとりが大切にされる教育・支援の充実」

児童生徒の状態を把握し、個に応じた指導・支援の充実に努めます。学校園所や関係機関と連携し、誰ひとり取り残さない児童生徒理解に基づく生徒指導・支援を行うとともに、多種多様な相談・支援体制を構築します。特別な配慮を要する児童生徒や、教室での居づらさを感じる児童生徒に対して、個に応じた支援ができるようサポート体制の充実に取り組みます。

⑤ 社会的自立に向けた教育の推進

組織的・系統的なキャリア教育を充実し、自らの生き方を考え、自分らしい進路を主体的に選択し、社会に参画する力を育みます。将来、国際社会でも活躍できるグローバル人材の育成に向け、語学力や表現力、コミュニケーション能力を育み、ふるさと三田に誇りを持ち、異文化理解を進めます。地域社会や高等学校、大学、博物館等の社会資源と連携し、教育の充実に取り組みます。

⑥学びを支える環境の整備～子どものより良い学びの環境づくり～

多様な学びの機会創出のため、市民との対話を重ね学校再編に取り組みます。1人1台端末などICTの利活用をはじめ、エレベータ設置や多目的トイレ増設などバリアフリー化、体育館への空調設置など学校施設の整備・長寿命化を進め、時代の変化に対応した教育環境の充実に取り組みます。若手教職員等の育成を図るとともに学校現場の働き方改革を進めます。

◆評価指標

	指標名	現状値(基準年)	目標値(R13)
	KGI 施策重要度・満足度(市民意識調査)	重要度 4.04pt 満足度 3.11Pt	↑
	KGI 「学校が楽しい」と答える子どもの割合	調査中	向上
a	KPI 「いじめはどんな理由があってもいけないこと」だと思う子どもの割合	小学生 88%、中学生 84.6% (R7.1 学期)	100%
b	KPI 授業で学んだことを、次の学習や実生活に結び付けて活用できると思う子どもの割合	小 83.8% (R7) 中 74.2% (R7)	小 90% 中 80%
c	KPI 1年間における教職員の1箇月超過勤務時間の平均時間	30時間 55分 (R6)	30時間
d	KPI 学校給食の献立に対する児童生徒の満足度	63% (R4)	75%
e	KPI 体育館における空調設置状況	0校	全校

《前期基本計画》

《後期基本計画(素案)》

■主要な条例・規則及び関連計画

条例・規則	三田市就学援助規則、通学費補助規則
関連計画	三田市教育大綱、三田市教育振興基本計画、三田市子ども・子育て支援事業計画

◆主要な条例・規則及び関連計画

条例・規則	三田市就学援助規則、通学費補助規則
関連計画	三田市教育大綱、三田市教育振興基本計画、三田市こども計画

最上位指標

市民の幸せ実感度の向上

【資料31-3】

	KGI (成果指標)	KPI (活動指標・取組指標)		現状値	目標値 (R13)	指標の設定理由	所管課
6 学校教育の充実	(主観的指標) 施策重要度・施策満足度	-	新規	重要度 4.04pt 満足度 3.11pt	向上	全施策固定指標	-
	「学校が楽しい」と答える 子どもの割合	-	新規	調査中	向上	学校教育の充実の成果指標は、「子どもの視点」を重視して設定する必要がある。その基盤となる学校生活の充実度を示す指標として、「学校が楽しいと感じること」を位置付ける。なお、「楽しい学校」は個々により異なるが、本計画では、いじめのない環境、分かりやすい授業、充実した給食、教職員との良好な関係、施設環境（体育館の空調等）といった要素の総合として捉え、指標化するものである。	学校教育課
	「いじめはどんな理由があっても いけないこと」だと思う子どもの割合		新規	[R7.1学期] (小)88%、 (中)84.6%	100%	「学校が楽しい」と実感できる学校生活は、学習や活動の充実以前に、子どもたち一人ひとりが心身ともに安全で、安心して過ごせる環境の上に成り立つものである。その基盤を脅かす最も深刻な要因の一つが「いじめ」であることから、「いじめはどのような場合でも許されない」とする子どもの意識の割合を指標として設定する。こうした意識の定着を図ることにより、子どもたちが互いを尊重し合い、安心して自己を表現できる環境を醸成し、結果として「学校が楽しい」と感じられる学校づくりを推進する。	学校教育課
	授業で学んだことを次の学習や実生活に 結び付けて活用できると思うこどもの割合		新規	小学校83.8% (R7) 中学校74.2% (R7)	小学校 90% 中学校 80%	本指標は「確かな学力の育成」及び「豊かな心の育成」の双方に関わる観点から設定する。授業で学んだことを次の学習や実生活に結び付けて活用できると実感することは、子どもが学びに「意味」や「目的意識」を見いだす基盤となる。こうした実感は、「学びたい」「知りたい」という内発的な動機付けを高め、主体的・能動的な学習を促すものである。さらに、自らの学びが活かされているという認識は自己肯定感の向上にもつながることから、学びの意義を実感し意欲的に取り組む子どもの育成を目指す。	教育研修所
	学校給食の献立に対する児童生徒の満足 度		新規	63% (R4)	75%	令和4年度に保護者を通じて実施した児童生徒アンケートでは、63%が学校給食に満足していると回答している。今後、中学校に加え令和8年度からは小学校においても給食費の無償化が開始される中であっても、質の高い学校給食の提供を維持・向上させることが重要である。このため、市の施策「健やかな体の育成」に基づき、学校給食の満足度を指標として設定する。目標値は、現状を踏まえ、4人に3人が満足している状態とする。	学校給食課
	1年間における教職員の 1箇月超過勤務時間の平均時間		新規	30時間55分 (R6)	30時間	市の取組である「学びを支える環境の整備」の中から、教職員の働き方改革に関する指標として設定する。教職員の過度な超過勤務は、心身の疲弊を招き、教育の質の低下や学校全体の活力の低下につながるおそれがある。このため、教職員が質の高い授業準備や生徒指導に専念し、心身にゆとりを持ってこどもと丁寧に向き合うことができる環境づくりを目指す。	教育総務課
	体育館における空調設置状況		新規	-	全校	教育振興基本計画の策定に向けたアンケートで「学校施設や設備で改善すべきこと」で最も多かった回答は体育館への空調であったことから、市の取り組み「学びを支える環境の整備」の中から、児童生徒が最も期待している施設整備に関する指標として設定する。目標値は計画的に設置することで全校設置とする。	教育総務課